

教育学研究科・グローバル教育展開オフィス

河野真子・高等教育学コース・博士後期課程2年

国際学会:アジア型大学探求プロジェクト(CERC and Kyoto University Joint Roundtable)

参加地:香港・2024/3/2-2024/3/6

成果の概要

英語で発表をすることはもちろん、日本の概念・文化をどのように言語化するか、ということにチャレンジするよい機会となった。私の研究トピックは人社系の「研究室」における共同体的な学びであるが、この言葉に相当するものが英語にはない。そのため国内での発表とは異なり、海外ではこれが何を意味するか説明から始めることが必要になる。発表後にいただいた質問・コメントから、伝わっていることと伝わっていないことを確認することができ、どのように言語化すべきか、背景として入れておくべき情報などへの示唆を得ることができた。

受入先のComparative Education Research Center (CERC)に所属されている多くの先生方、学生が参加しており、お互いの研究発表やグループディスカッションだけではなく、ブレイクタイム、ランチタイムなどプログラム外の時間も含めて、密なコミュニケーションを取ることができた。今回のテーマであるアジア文化あるいはそれぞれの自国文化の根底にある思想と教育実践の繋がりに関する活発な意見交換が行われ、考えを深めることができた。継続的な研究交流の場としてCERCが定期的で開催しているオンラインセミナーの案内があり、メーリングアドレスへの登録を行った。今回直接会って交流し、お互いの研究内容を知ることができたことで、オンラインでの対話に参加しやすくなったように思う。

高等教育学コースの学生として、香港大学のキャンパスの様子を見たり歴史を聞くことも興味深かった。キャンパスにはかつてここで学んだ孫文の像やコロニアル様式の建物(大学メインビルディングや、現在は香港大学出版社が入っている建物など)から、近年建設された機能的な建物や多様な文化的背景を持つ人々の受け入れへの対応がうかがえるベジタリアンカフェなど、広いキャンパスのほんの一部しか歩く時間がなかったが、様々な興味深い特徴を見ることができた。今回参加した研究者・学生もそうであったが、香港出身の方より中国本土出身の方の数が圧倒的に多かったことも、そのことが研究の指向性に与える影響があるのか等の点で興味深かった。

最後に、今回の交流事業では、普段は話す機会がほとんどない研究科内の他コースの学生たちの研究発表を聞くことができたことも意義があったと思う。海外での交流授業は、このことが強調されすぎると内部の交流が中心となり、せっかくの海外相手校の人たちとの交流が疎かになってしまう恐れがあるが、今回は事前の京都でのイベントや勉強会の実施などであらかじめ内部交流ができたことで、香港大学を訪問した際には既にある程度の相互理解ができており、先方のことを知ることに注力する余裕があったのかもしれない。

今回、このような貴重な機会をいただいたことに感謝すると共に、CERCとの研究交流がより深まる形で継続されることを期待したい。